
領域名：地域看護

報告者：長濱直樹

教育及び実践の課題

地域保健看護実習Ⅱの指導教員としては、実習指導者は、保健師経験や実習指導経験の豊かな保健師に担当してもらいたいという要望はあるが、実習指導者の条件が整っている施設は少なく、受け入れ可能な実習施設に依頼しているのが現状である。当領域では実習説明会の場などを活用して保健師実習指導者の役割自己評価尺度(SSRPC)等の活用を検討しながら保健師実習指導者への研修の機会を作り、実習指導に対する知識・技術を共有することが課題である。

活用した論文の概要

活用した論文は、地域実習における実習指導者としての保健師の役割を自己評価するスケールを開発し、このスケールの妥当性と信頼性を評価したものである。自記式質問紙は、全国 281 の地域の保健機関で働く、実習指導者の経験のある保健師 (n = 1,467) に郵送された。

結果は、合計 760 の有効な調査（元の調査の 51.8%）が分析され、探索的因子分析により、34 項目のうち、1) 学生と職業的価値、信頼および技能を共有する、2) 学生の臨床経験を体系化する、3) 学生の学習に対する自信と意欲を鼓舞する、4) 学生が学ぶ環境を創出する、5) 学生との良好な関係、6) 臨床教育の準備の 6 つの要因が特定された。この尺度は、公衆衛生看護師の能力と職業的アイデンティティの両方と有意に相関していた。

教育及び実践への活用

当該研究では、地域実習における実習指導者としての保健師の役割を自己評価するスケールは、有用性および妥当性、信頼性ともに評価された。よって、このスケールの活用を実習指導者(CI)に実施したいと考えた。新カリキュラムの実習方針と教育実践にも関連させながら、カリキュラム改訂にあわせて検討しようとしたが、カリキュラム改定が 2020 年度から 2022 年度になったため、今年度は活用していない。今後は実習を通して、実習指導者への情報提供を行い、実習指導力の向上に向けたニーズを把握し検討する予定である。

今後、保健師教育のカリキュラム変更（2022 年から）の機会に、実習説明会の場などを活用して保健師実習指導者への研修の機会を作り、実習指導に対する知識・技術を共有する必要がある。その際、沖縄県の「保健師人材育成指針」を参考に県・保健所や看護協会の協力を得て実施内容、方法についても検討できることが望ましい。

参考文献

Kotera S,Matsuda N.(2012). Developing a Self-evaluation Scale for Roles of a Public Health Nurse as a Clinical Instructor in Japanese Context. Bulletin of health sciences Kobe,28,1-3
